

サステナビリティ経営の実現を目指す森永乳業グループ

「第6回 ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」において「環境サステナブル企業」に2年連続で選定

森永乳業は、環境省が主催する「第6回 ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」において、重要な環境課題に関する開示充実度が一定の基準を満たしている企業に贈られる「環境サステナブル企業部門」に2年連続で選定されたことをご知らせいたします。



「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」は、2019年に環境省により創設された表彰制度です。ESG金融に積極的に取り組む金融機関、諸団体や環境サステナブル経営に取り組む企業を評価・表彰し、その内容をESG金融や環境サステナブル経営に取り組む多くの関係者と共有することを目的としており、今年で6回目を迎えます。

「環境サステナブル企業部門」は、「環境関連の重要な機会とリスク」を経営戦略に取り込み、企業価値にもつなげつつ環境への正の効果を生み出している「環境サステナブル企業」の具体的な実例を投資家、企業に示すために表彰するものです。重要な環境課題に関する「リスク・事業機会・戦略」、「KPI」、「ガバナンス」の開示充実度を、業種別特性も考慮して評価・選定されます。

「ESG ファイナンス・アワード」【環境サステナブル企業部門】概要

<https://www.env.go.jp/policy/award.kigyobumon.html>

環境省 報道発表資料 第6回「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」受賞者の決定について

https://www.env.go.jp/press/press_04428.html

当社グループは、サステナビリティ経営の実現に向けた活動を推し進めるべく、2022年に「サステナビリティ中長期計画2030」を策定し、3つのテーマ「食と健康」「資源と環境」「人と社会」を軸に取り組みを進めています。



「資源と環境」では、サプライチェーン全体での環境負荷低減を進めています。中でも気候変動の緩和に向けては、2050年カーボンニュートラルを目指し、スコープ1+2、3それぞれで2030年までの削減目標を定め、取り組みを進めています。具体的には事業所における省エネルギー活動や再生可能エネルギーの活用、サプライチェーン上においてはモーダルシフト推進や酪農現場でのメタン削減を推進しています。同時に、TCFDの枠組みでの開示の充実など、森永乳業グループの環境に対する取り組みを積極的に発信しています。

【2024年度の環境に関する主な取り組み】

①TNFD 情報開示フレームワークに基づく自然関連財務情報の開示

2024年度より、森永乳業グループのサステナビリティサイト内にてTNFDの情報開示フレームワークに基づく自然関連財務情報を公開しました。

今回の開示は、TNFDの開示提言に基づき、事業と自然資本の関係性(依存度と影響)やリスクと機会の整理を行い、TNFDが推奨する「ガバナンス」「戦略」「リスクと機会の評価」「指標と目標」の4つの項目でまとめました。

事業における自然資本への依存と影響については、森永乳業グループのサプライチェーン全体を評価し、主要調達品目20品のうち国際的に自然資本リスクが注目されるコーヒー豆の調達とコーヒー製品の製造に絞り込み、リスクと機会、財務インパクトの評価を行いました。

②ウォータープロジェクトへの参画

2025年1月、人と水との関わりを考え、産官学民等の多様な主体の連携による良好な水環境の活用・保全を通じて、持続可能な地域社会の実現を目指す取り組み「ウォータープロジェクト」へ参画しました。プロジェクトを通して、森永乳業グループにおける水資源使用量の削減、水源の保全活動をさらに進めてまいります。

かがやく“笑顔”のために

森永乳業株式会社